

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会
2022 年度事業計画

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2022 年度事業方針

2022 年度の事業について説明します。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響はいまだ侮れず、会員の皆さんの安全を第一に、事業を進めます。

まず社員総会は、9月3日（土）にオンラインにて開催します。

リハ工学カンファレンスは、第36回目を数えますが、中国・四国支部を中心に実行委員会が動いており、8月21日（土）～21日（日）、オンラインにて開催します。多くの皆さんとコミュニケーションが取れることを楽しみにしています。カンファレンス会期中には福祉機器コンテスト2022の発表および表彰も行います。既に昨年度を超える応募をいただき、審査も着々と進んでいます。カンファレンス後には、福祉機器コンテスト2023開催に向けて準備をすすめていきます。

協会誌は、例年通り年4回の発行を計画しています。新しい編集委員にも入っていただき、多彩な紙面になると思います。多くの皆さんからの論文投稿、各種の報告も是非お願いします。

分科会活動は、SIGの法人内移行を進めると共に、法人内に入ったことで更に活動が活発になるような仕組みを会員の皆さん一人一人と考えるゆきたいと思っています。地域支部は、近郊地域との交流を主に考えてきましたが、新しい時代です。Web会議システムを利用することで、物理的な距離を越えて可能になる活動もあるように思います。協会の支援と共に、各地でのノウハウが活かせるきっかけを増やしてゆきたいと思っています。

2021年度から動き出した「リハ工 ミライ・アッセンブリー」は、SIGや支部との協力関係を密にとりながら、会員向けだけに限らない情報発信の場として、定期開催をしてゆきたいと考えています。会員の皆さんの参加と、身近な相談先に困っている方、SNSを利用しての情報発信・共有と、いろいろな組み合わせで、幅広い展開にしてゆきたいと思っています。

2021年度は、第8回の合同シンポジウムを開催しました。充実した内容で、新しい観点を感じた会でした。じっくり丁寧に議論することも、教えてくれた会でもありました。

他団体との連携は、これまでの全国頸髄損傷者連絡会を中心に、共同企画を進めてゆきます。特に国際連携推進委員会では、2020年から動き出したGAATO（Global Alliance of Assistive Technology Organizations：世界支援技術団体連合）の理事会メンバーとして、またアジアのリハ工学関連組織の連携団体であるCREATE Asia（アジアリハ工学連携会議）のメンバーとして、これまで同様に国際連携活動を推進します。

COVID-19の影響は大きく、国際福祉機器展（H.C.R.2022）等への出展は、削減してゆく方向性にあります。他の福祉機器展などへの出展を含め、もう一度会員の皆さんへのサービスの点で総合的に考え直してゆきます。

また個々でかつ、常に準備の必要がある災害対策については、協会としてJRATの加盟をしましたので、活動の継続をします。多くの会員の皆さんの協力もあり、被災地支援や災害対策セミナーを開催してきました。蓄積された知見もあります。協会としても災害対策委員会として対応してゆきます。

最後に懸案を説明します。残念ながら協会設立時の会員を中心に退会者が少なくありません。つまり会員が減少している状況にあります。協会員の年齢だけではなく、保険改正に伴い、時間だけの評価軸が優位になっています。機器支援が細切れになり、地域に時間をかけ、多様な視点で、多くの失敗を乗り越えて、利用者が本当に必要なものに遭遇する機会に恵まれていないこともあると思います。個人や

地域での展開が難しくなっている実態もあると聞いています。障害に対するシステムに無理があり、多くの困難に耐えきれない地域もあると思います。地域包括と聞くと中核だけが何か出来るという過信は悲しいです。高齢者支援のネットワークに、障害も包含して、協会は、どう対応してゆくべきでしょう。

多くの相談先を見つけ、ゆるくともつながり続ける、年に一度のカンファレンスの時だけしか会わなくとも、協会の皆さん相互につながってきたかと思えます。地域を大切に、個人の実現のためにも、協会活動に積極的に関与していただきたいと思っています。より多くの相談者であるためにも、個々に、共に、明日を考えてゆきましょう。

会長 河合 俊宏

1. 事業

1-1. リハ工学カンファレンス関連（カンファレンス担当理事）

1) 第36回リハ工学カンファレンス準備

第36回リハ工学カンファレンス from 中国・四国支部の開催準備を行う。

- ・会期：2022年（令和4年）8月20日（土）～21日（日）
- ・会場：オンライン開催
- ・大会テーマ：リハ工学が変える！住み続けられるまちづくり
- ・大会長：鈴木太氏（愛媛頸髄損傷者連絡会）
- ・実行委員長：谷口公友氏（広島国際大学）

2) 第37回リハ工学カンファレンス準備

第37回リハ工学カンファレンスの開催準備を行う。

候補地としては東京で実施する方向で検討する。

3) 第38回リハ工学カンファレンス準備

第38回リハ工学カンファレンスの開催準備を行う。

4) UMIN（大学病院医療情報ネットワーク）継続利用

1-2. 福祉機器コンテスト関連（コンテスト担当理事）

1) 福祉機器コンテスト2022

第二次選考会 2022年8月6日（土）

機器開発部門：プレゼンテーション審査

学生部門：書類・ビデオ審査

於：オンライン形式または対面形式、ハイブリッド形式による実施（予定）

発表・表彰（予定）：第36回リハ工学カンファレンス from 中国・四国支部内のプログラム
8月20日（土）～21日（日）

於：オンライン形式による実施（予定）

2) 福祉機器コンテスト2023

特別協賛：（予定）フランスベッド株式会社

協賛：（予定）株式会社有菌製作所、株式会社ケープ、日本3Dプリンター株式会社

後援：（予定）厚生労働省、経済産業省、公益財団法人テクノエイド協会

公益社団法人日本理学療法士協会、

一般社団法人日本福祉用具・生活支援用具協会、

一般社団法人日本作業療法士協会、一般社団法人日本車椅子シーティング協会

一般社団法人日本義肢装具学会、一般社団法人日本生活支援工学会

一般社団法人日本人間工学会、
特定非営利活動法人バイオフィリアリハビリテーション学会
バイオメカニズム学会

福祉機器コンテスト 2023 事務局 (2023 年 3 月 1 日～)、選考委員会の設置 (2023 年 4 月 1 日～)

募集対象：機器開発部門、学生部門

広報開始・応募要綱配布：4 月中旬

募集期間：機器開発部門 5 月～6 月、学生部門 5 月～7 月

展示・広報 (予定)：キッズフェスタ (東京) 展示会 (広報) 4 月

バリアフリー2023 (大阪) 展示会 (広報) 4 月

3) コンテスト発展のための取り組み

- ・コンテストの企画内容及び運営方法を見直す

1-3. 協会誌関連 (協会誌担当理事)

1) 協会誌編集

- ・年 4 回、協会誌の発行に合わせて必要に応じ会場の確保を行い、編集委員会を開催する
- ・コロナ禍での電磁的開催は定着したが、会場利用での対面開催のメリットも大きいため、年 2 回の会場開催を行う

2) 協会誌発行

- ・以下の協会誌を発行予定

2022 年度

Vol. 37 No. 3 2022/08 特集「教育と VR テクノロジーの発展について (仮)」

Vol. 37 No. 4 2022/11 特集「デジタル (ICT) で支える障害児・者の暮らし (仮)」

Vol. 38 No. 1 2023/02 特集「高齢者の活動と参加を支援する福祉用具 (仮)」

Vol. 38 No. 2 2023/05 特集「車椅子・シーティング関連 (仮)」

- ・お知らせ記事掲載内容の見直しをはかる

3) 投稿論文 (査読依頼)

- ・早期に査読委員会を設立し、新たに査読委員会内規のもと、投稿論文の査読者の確保と依頼、迅速な査読、査読依頼と結果通知の電子化を行う

4) 協会誌の段階的電子化

- ・協会誌電子化作業のうち、J-STAGE (科学技術情報発信・流通総合システム) 登載を株式会社ジェイピーシーに継続委託する

1-4. 分科会・支部 (分科会 (支部)・専門委員会担当理事)

1) 支部への活動支援

- ・会員はいずれかの地域の支部に所属し、各支部ではリハ工学に関わる人的ネットワークを構築している。協会誌や HP で全支部からの情報を掲載し、会員への周知を図っている。支部ごとで活動状況に差があるので、2022 年度は本部や他の委員会と協力し、さらなる支部活動への支援を積極的に行う
- ・継続的な活動が行えるよう、活動経費として支部活動金の配分を行う
- ・2022 年度も引き続き支部活性化のための情報発信の簡便化や効率化などについて検討する

2) 2022 年度活動計画 (期間：2022 年 7 月～2023 年 6 月)

- ・詳細は、各支部活動計画及び役員体制 (案) 等として別紙に示す

1-5. 分科会・SIG（分科会（SIG）担当理事）

1) SIG 活動支援

- ・現在設立されている 10 SIG は、それぞれ主体的に活動内容を企画・実施しつつ、時に複数 SIG 間で協同の事業を行っているなど 10 グループの活動組織は、当法人が企画する事業を実現化する際に大変頼りになるパートナーである。これまでも当法人が企画・参画・運営する事業（講習会やコンテスト、協会誌の査読、リハ工学カンファレンスなど）実施に際して法人内 SIG・協力 SIG と協働しており、2022 年度以降も同様に協働しながら当法人の活動を活性化していく
- ・SIG の活動を支援するために、引き続き、協会誌やホームページ（以下、HP）への情報掲載の運用を行い、各 SIG と情報交換しながら情報発信を進めていく
- ・2022 年度中に協力 SIG の法人内移行のための法人内 SIG を設立し、法人外 SIG については、並行して残務・財務の整理を行ったうえで、2022 年度中に解散できるよう覚書を交わすなどの作業を行っていく

2) SIG の位置づけ検討委員会支援

- ・2022 年 10 月 30 日までの設置期間内で、全 SIG の内部化の道筋が経った時点で、活動を終了する予定である
- ・協力 SIG を法人内 SIG へと移行するための方策の検討と諸規定の整備などを行う
- ・Web（Chatwork）を通じた委員会の開催と、必要に応じて委員会の対面開催や SIG との打ち合わせを行う

2022 年度活動計画 期間：2022 年 7 月～2023 年 6 月 ※SIG 会員数（協会員数）は 2022 年 6 月 1 日現在

SIG 姿勢保持	http://www.resja.or.jp/posi-sig/	会員数：125 名（30 名）
代表者：繁成剛（長野大学）	事務局長：児玉真一	
<ul style="list-style-type: none"> ・WEB サイト運営、会員専用 ML への情報発信、リハ工学協会事業への協力 ・書籍（小児から高齢者までの姿勢保持・第 2 版）や資料集 PDF 版の販売 ・役員会の開催：開催予定 日程：2022 年 12 月末 オンライン会議（予定） ・講習会：開催予定（日程・方法・場所未定） 		
車いす SIG	https://www.wheelchair-sig.jp/	会員数：48 名（36 名）
代表者：沖川悦三（神奈川県総合リハビリテーションセンター）	事務局長：深野栄子	
<ul style="list-style-type: none"> ・車いす SIG 講習会 50 回開催記念大会（2022 年 9 月 17 日（土）～18 日（日）） 会場：一般社団法人 日本福祉用具評価センター（JASPEC） ・車いす SIG 講習会（小児編）日時、場所未定 ・役員会の開催、WEB サイト運営、テキスト発行、分科会（BOG）活動、大規模災害復興支援、協会事業への協力 他 		
自助具 SIG	HP なし	会員数：9 名（9 名） Facebook グループ登録者（46 人）
代表者：岡田英志（ヒューマン）	事務局長：岡田英志（ヒューマン）	
<ul style="list-style-type: none"> ・第 38 回リハ工での「3D プリンター自助具の検討会企画」 ・3D プリンター研究会設立 		
乗り物 SIG	http://ameblo.jp/sunrisejp007/	会員数：5 名（5 名）
代表者：麩澤孝（有限会社セカンドステージ）	事務局長：片石 任（株式会社フロンティア福祉本部）	
<ul style="list-style-type: none"> ・SIG ブログの更新、充実、情報提供 ・分科会（BOG）活動、協会事業への協力 		
SIG 褥そう防止装置	http://www.resja.or.jp/sig-pmps/	会員数：20 名（10 名）
代表者（事務局兼務）：新妻淳子（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）		
<ul style="list-style-type: none"> ・HP の更新、褥瘡学会との連携（委員派遣・セミナーの後援） ・COVID-19 対応指針作成・遠隔支援・役員会合・Web セミナーの開催・会員募集 ・11 月開催の日本シーティングシンポジウムの後援、SIG 会員からの講演者派遣 		
コミュニケーション SIG	http://www.resja.or.jp/com-sig/	会員数：67 名（20 名）
代表者：渡辺崇史（日本福祉大学）	事務局長：上野忠浩（横浜市総合リハビリテーションセンター）	
<ul style="list-style-type: none"> ・講習会開催、協会事業への協力等 		

SIG 住まいづくり	http://www.resja.or.jp/sumai-sig/	会員数:60名(38名)
代表者:橋本美芽(東京都立大学)	事務局長:鈴木基恵(横浜市総合リハビリテーションセンター)	
<ul style="list-style-type: none"> ・講習会開催 ・協会事業への協力 ・Web サイトリニューアル検討 		
特別支援教育 SIG		会員数:5名(5名)
代表者:松田靖史(川村義肢株式会社)	事務局長:高原光恵(鳴門教育大学)	
<ul style="list-style-type: none"> ・協会事業への協力 ・特別支援関連情報(身近な教材・活用例)の収集、情報提供 		
移乗機器 SIG	2022年度に協会内SIGを設立予定 新HP未定	会員数:33名(13名)
代表者:古田恒輔(神戸学院大学)	事務局長:青木久美子	
<ul style="list-style-type: none"> ・協会事業への協力(旧SIG解散のため、協会内にSIG設立後に事業計画を立てる予定) 		
義肢装具 SIG	http://www.resja.or.jp/po-sig/	会員数:82名(25名)
代表者:笹川友彦(熊本総合医療リハビリテーション学院)	事務局長 砂野義信(フリーランス)	
<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインセミナー2回開催 SIG会員向け 参加費無料 SIG役員による義肢装具トピックスを中心に ・新形式での講習会 コロナ禍での新しい形式の講習会開催 ・義肢装具SIGホームページ運営 		

1-6. 災害対策事業(災害対策担当理事)

1) 災害対策セミナーの開催

- ・運営は災害対策委員会を中心に各SIGや支部の協力を仰ぎながら企画し、リハ工学による災害対策の啓発、技術伝承及び、災害時の福祉用具や住環境改善の対応等の内容から検討する
- ・専門職向けやリハ工学に興味のある方等を対象とする
- ・対面開催を基本とするが、オンライン開催なども視野に、コロナ禍の状況を見ながら実施を検討する

2) 災害対策委員会の運営と大規模災害時の協会の対応

- ・他団体との協力体制を構築するとともに、被災地調査、平時の災害対策啓蒙などを実施する
- ・近年、複数の災害関連団体が発足している。RESJAとしての特徴を生かす新しい団体との連携についても検討する

2022年度の主な活動は以下の通り。

- ・災害対策セミナー等の企画・実施
- ・障害を持つ人の防災マニュアル(仮称)の作成
- ・JASPA(一般社団法人日本福祉用具生活支援用具協会)の災害復興車椅子メンテナンス事業に参加
- ・JRAT(一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会)活動への参加
- ・地域JRATとRESJA支部との連携の検討
- ・JRAT、JAWS(一般社団法人日本車椅子シーティング協会)、JASPA、日本福祉用具供給協会などの連携の窓口対応
- ・DWAT(Disaster Welfare Assistance Team:災害福祉支援チーム)等の他団体との関係性についての検討
- ・その他、災害対策委員会が独自に必要なと認めたこと

1-7. 企画推進事業(企画担当理事)

協会の広報活動及び会員獲得に向けたPR活動、公益活動のために以下の展示会出展および出展社セミナー等の開催を行う。

1) 研修企画委員会の運営

- ・新たな会員獲得及びリハ工学に関する知識や技術の普及促進

- ・新たな会員獲得、及びリハ工学に関する知識や技術の普及促進を目的に、リハ工 ミライ・アッセンブリーの開催

2) 合同シンポジウムの開催

- ・協会だけではなく外部団体と連携し、ジャンルを超えた意見ディスカッションを実施することで、障害当事者の一助になるシンポジウムを開催する

1-8. 事業統括（事業統括理事）

1) 学会展示会、広報活動強化

以下の展示会等へブース出展し、広報活動を実施する。その際には各地域の支部で運営するように体制整備を併せて行っていく。

- ・バリアフリー2023（2023年4月 於：インテックス大阪（大阪））
- ・その他各地域で行われている福祉機器展や関連学会についても、可能な範囲で出展を行い協会の広報等を行う。各地域支部やSIGとの協力を積極的に進めると同時に、可能な限りセミナー実施とセットで行う

2) セミナー開催

各福祉機器展において出展機会を有効活用し、出展効果の向上とリハ工学に関する普及を促進する目的で、積極的に出展社セミナー・ワークショップを開催していく。

- ・バリアフリー2023（大阪）での出展社ワークショップを企画・開催
- ・その他の地域で開催される福祉機器展においても、支部・SIG等と協力してセミナーの開催を検討する

3) 情報保障の拡充

障害者差別解消法の施行により、障害のある人に対する情報保障を実施する必要性がある。当協会においても、主催セミナーやシンポジウム、支部事業、カンファレンス等において情報保障の実施が求められており、そうした社会情勢に対応するための体制づくりを継続して行う。

1-9. 国際関連事業（国際担当理事）

1) 国際関連団体との相互協定に基づく交流

- ・リハ工学カンファレンスへの、韓国リハビリテーション工学協会（RESKO）および台湾リハビリテーション工学協会（TREATS）の代表（各2名）の参加に対する費用負担
- ・2022年8月に香港にて開催されるアジアリハ工学連携会議（iCREATe）への、RESJA代表者（1名）の参加に対する費用負担
- ・GAATOへの参加と連携
 - ・ATに関する組織が整備されていない国、地域への支援を策定する計画策定委員会が立ち上がり、RESJAから国際関連推進委員である井上剛伸氏（国立障害者リハビリテーションセンター）が参加する
 - ・Grand Challenges AT Outcomes and Impact Initiative 報告書作成等に引き続き協力する

2) 国際連携推進委員会の開催

- ・理事会のもとに、協会の国際連携等についてのアドバイスを行う国際連携推進委員会を設置し、年に1回程度の委員会開催を予定し、理事会の決定を補佐する

2. 総務

2-1. 規則・選挙（規則・選挙担当理事）

- 1) 2023 年度役員候補者選挙
 - ・2023 年度役員候補者選挙を実施する
- 2) 規程の整備
 - ・各種規程を整備し、必要に応じて改定を行う

2-2. 財務（財務担当理事）

- 1) 法人会計の管理
 - ・2022 年度決算の実施
 - ・2023 年度予算案の提案
 - ・四半期決算の実施
- 2) 分科会・支部の連結決算の準備
 - ・会計システムの再構築
 - ・会計システムの統合

2-3. 総会・理事会（総会・理事会担当理事）

- 1) 2022 年度理事会の開催
 - ・年 5 回、定例の理事会を開催する
 - ・時期は 2022 年 7 月、10 月、12 月、2023 年 3 月、6 月とする
 - ・オンライン会議を基本とするが、必要に応じて対面開催とする
- 2) 2022 年度定時社員総会の開催
 - ・2022 年 9 月に定時社員総会を開催する
 - ・開催に必要な最少人数のみ集まる
 - 日時：9 月 3 日（土） 11:00～12:00
 - 会場：加瀬ビル 8 8 8 階 第 6 会議室（神奈川県横浜市港北区新横浜 3-19-11）

2-4. 広報・渉外（広報・渉外担当理事）

- 1) 協会リーフレット印刷
 - ・協会案内用リーフレット印刷
- 2) WEB 会議システム利用
 - ・WEB 会議システムを活用し、効率的で経費負担の少ない事業運営を目指す
- 3) Web 管理委員会の運営
 - ・協会 HP を維持・管理し、適切に更新していく
 - ・協会公式 SNS 活用の促進と追加の検討

2-5. 事務局（事務局担当理事）

- 1) 事務局運営
 - ・法人としての事務局を運営し、法人会計の更なる整備を進める
- 2) 会員情報管理システム導入検討
 - ・事務局体制支援を含めたシステム導入について検討する
 - ・イベント、セミナー等の集金システムを活用する
- 3) 展示会出展における広報活動

3. 後援・協賛事業

- ・後援・協賛予定事業（主催団体と内容）は下記の通りである

No.		団体名	開催日程	内容
1	協賛	一般社団法人日本機械学会、 一般社団法人ライフサポ ート学会、一般社団法人日本生 活支援工学会	2022/8/19～21	LIFE2022
2	協賛	特定非営利活動法人 ヒュー マンインタフェース学会	2022/8/31～9/2	ヒューマンインタフェースシン ポジウム2022
3	後援	一般社団法人日本作業療法 士協会	2022/9/16～18	第56回日本作業療法学会

◇東日本支部

1. 概要

昨年度に引き続き今年度も早期に組織の編成を行い、今後の活動計画の策定に努めたい。東日本支部は広域であり、会議・セミナー・勉強会などについては、Web 会議システムなどを活用したいと考えている。東日本大震災などの災害の経験を活かして地域 JRAT と支部の協力体制を構築していきたい。

◇関東・甲信越支部

1. 概要

関東・甲信越支部活動として、昨年度より掲げている「災害対策キャンプ」のテーマを継続していく。その中で、食事に限らず寝泊まりや排泄といった必要な動作場面を環境や道具などを支援者や当事者の視点で整理し、Web 会議システム等を用いたオンラインでの会議・セミナー・勉強会の場で情報発信や意見交換することを計画していく。

2. 主要事業

(1) 災害対策キャンプの企画・運営

時期：未定

場所：未定

内容：災害時、避難先での寝泊まりや食事、排泄などを想定した道具等の利用検証や意見交換会を実施予定

3. その他

(1) 支部役員会の開催

日時：必要に応じて開催

場所：オンライン形式を予定

内容：2021年度の事業報告・決算報告、2021年度の事業計画案・収支予算案についての検討や各イベントの企画調整等

4. 2022年度支部役員体制

代表：沖川悦三（神奈川県総合リハビリテーションセンター）

幹事：水澤二郎（一般財団法人啓成会：継続）

深野栄子（日本リハビリテーション工学協会：継続）

麩澤 孝（(有)セカンドステージ：継続）

植田瑞昌（日本女子大学：継続）

片石 任（株式会社フロンティア福祉本部：継続）

河合俊宏（埼玉県総合リハビリテーションセンター：継続）

白鳥智子（山梨県立あけぼの医療福祉センター：継続）

鈴木明子（野のすみれクリニックリハビリテーション科：継続）

岡野善記（合同会社アライフ：継続）

石濱裕規（医療法人社団永生会：継続）

森田千晶（神奈川県立保健福祉大学：継続）

事務局：神奈川リハビリテーション病院研究部内 村田知之

連絡先：kkse@resja@or.jp

◇中部支部

1. 概要

年間2回程度の支部セミナーを主催するとともに、各種勉強会を開催する。さらに、関係諸活動の後援など、リハビリテーション工学に関わる研究や知識・技術等の普及・啓発を図る。

2. 主要事業

(1) 支部セミナーの開催

①開催日：2022年(実施日未定)

場所：ハイブリッド開催(会場は愛知県内(予定))

テーマ：ハイブリッド福祉用具見学会

講師：中部支部会員

②開催日：2022年(実施日未定)

場所：ハイブリッド開催(会場は未定)

テーマ：機器活用勉強会および事例検討会

講師：中部支部会員

3. 他学会等の事業への後援・協賛・協力

後援・協賛・協力依頼等があれば、随時検討する。

4. その他

支部役員会の開催(随時開催予定)

場所：基本的にオンラインにて実施する

5. 2020年度支部役員体制

代表：渡辺崇史(日本福祉大学：継続)

幹事：北野義明(石川県リハビリテーションセンター：継続)

安田秀一(金沢市社会福祉協議会：継続)

長東晶夫(なごや福祉用具プラザ：継続)

事務局：日本福祉大学 渡辺崇史

連絡先：wata-t@n-fukushi.ac.jp

◇関西支部

1. 概要

年間1回程度支部セミナーを主催するとともに、各種勉強会を開催する。さらに、バリアフリー2023の出展協力やミライ・アッセンブリーでのセミナー開催など、協会活動への協力をを行い、リハビリテーション工学に関わる研究や知識・技術等の普及・啓発を図る。

2. 主要事業

(1) 支部セミナーの開催(年間1回程度)

●2022年度関西支部セミナー

開催日：2022年11月6日(日)13:00~15:00(最大15:30まで)

場所：神戸学院大学 神戸三宮サテライト(ミント神戸17階)

もしくはWeb会議システムによるオンライン開催

テーマ：電動車椅子製作における地域格差について

講師：関西地域の4名の当事者を予定

(2) リハエミライ・アッセンブリーでのセミナー開催

テーマ：3D CADと3Dプリンターの組み合わせで自助具を創るプロジェクトの紹介

- ・前編 (3Dプリンター用データ制作)
開催日：2022年7月9日(土) 10:00～16:00
場所：神戸芸術工科大学プロダクト・インテリアデザイン学科
- ・後編
開催日：2022年8月26日(金) 18:00～の予定
場所：Web会議システムによるオンライン開催

(3) バリアフリー2023 運営協力および出展社セミナーの開催

- 開催日：未定
- 場 所：インテックス大阪
- テーマ：未定
- 内容：ブース運営スタッフの派遣、出展社セミナーの開催

3. 他学会等の事業への後援・協賛・協力

今のところ予定なし

4. その他

支部役員会の開催

日時：未定

場所：大阪、神戸、およびオンライン会議も検討

内容：2022年度の事業報告・決算報告、2023年度の事業計画案・収支予算案について支部セミナー等の企画検討など

5. 2021年度支部役員体制

- 支部長：相良二郎 (神戸芸術工科大学：継続)
- 副支部長：金井謙介 (the Light on Design Project：継続)
島本 卓 (兵庫頸髄損傷者連絡会：継続)
- 幹事：赤澤康史 (兵庫県立福祉のまちづくり研究所：継続)
川村 慶 (川村義肢株式会社：継続)
剣持 悟 (川村義肢株式会社：継続)
杉本昌子 (パシフィックサプライ株式会社：継続)
中村俊哉 (兵庫県立福祉のまちづくり研究所：継続)
松田靖史 (川村義肢株式会社：継続)
宮野秀樹 (非営利活動法人ぼしぶる：継続)

事務局長：糟谷佐紀 (神戸学院大学：継続)

連絡先：〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬 518 神戸学院大学総合リハ学部糟谷研究室
078-974-1920 (Tel/Fax) /kansai@res.ja.or.jp

◇中国・四国支部

1. 概要

2022年度は、第36回リハ工学カンファレンスを中国四国支部で担当するため、8月の開催日までは、すべて役員は実行委員会に所属し準備にあたる。カンファレンス後、支部担当理事と相談しながら、年1回程度の支部セミナーを検討する。

カンファレンスの広報を通じて、リハビリテーション工学の普及・啓発を図る。

2. 主要事業

- (1) 第36回リハ工学カンファレンス from 中国・四国支部

開催日：2022年8月21日（土）22日（日）

場所：オンライン形式にて実施

運営事務局は広島国際大学に置く

テーマ：「リハ工学が変える！住み続けられるまちづくり」

(2) 支部セミナーin 高知ふくし総合フェア（福祉機器展）

開催日：2022年11月19日（土）20日（日）

場所：高知ちばさんセンター

テーマ：「当事者こそが変える！人手不足の介護現場（仮）」

講師：中国四国支部役員で実施

(3) 「リハエミライ・アッセンブリー」の開催協力

カンファレンス終了後、支部担当理事と相談し検討

3. 他学会等の事業への後援・協賛・協力

特になし

4. その他

支部役員会の開催

- ・カンファレンス終了までは役員はすべて実行委員会に所属しカンファレンスの準備に専念する
- ・カンファレンスの実施後の委員会が終了後支部役員会を再開する

5. 2020年度支部役員体制

代表：下元佳子（一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク）

幹事：鈴木太（愛媛頸髄損傷者連絡会）

谷口公友（広島国際大学）

事務局：福島寿道・高橋一郎（一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク）

連絡先：一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク

高知県高知市本町3-6-37 088-821-7756/nhn@nhcn.jp

◇九州支部

1. 概要

年間1回程度支部セミナーを主催するとともに、各種勉強会を開催する。さらに、関係諸活動の後援など、リハビリテーション工学及び福祉機器に関わる研究や知識・技術等の普及・啓発を図る。

2. 主要事業

支部交流会の開催

●九州支部オンラインミーティング

開催日：2022年11月（未定）

場所：西日本総合展示場 新館（北九州市小倉北区浅野3-8-1）

※第24回西日本国際福祉機器展において、展示ブースを巡りながら出展社および来場者（リハ工学協会会員も含む）とディスカッションする

3. 他学会等の事業への後援・協賛・協力

依頼があれば検討します。

4. その他

支部役員会の開催

- ・主としてメーリングリストで意見・情報交換を行う。適宜、WEB会議を開催する

5. 2022年度支部役員体制

代表：小林博光（総合せき損センター：継続）

スタッフ：江原喜人、山形茂生 ※交代や追加の可能性あり
連絡先：koy@resja.or.jp